

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(44)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(44)—

1. 始めに

前報(43)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノ協奏曲です。

LONDON SLC1862

モーツアルト ピアノ協奏曲 9 番変ホ長調

ピアノ協奏曲 8 番ハ長調

ロンドイ長調

ウラディミール・アシュケナージ (ピアノ)

イシュトバン・ケルテス指揮ロンドン交響楽団

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

LONDON 盤ということで、DECCA、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。二つの協奏曲とロンドとも、若いアシュケナージのピアノは明るく明晰な音でトンと小気味よく運んでいきます。ケルテス指揮ロンドン交響楽団も歯切れよく、アシュケナージのピアノとよくマッチしています。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、アシュケナージのピアノとケルテス指揮ロンドン交響楽団

の音楽の作り方がよく分かります。

以上